

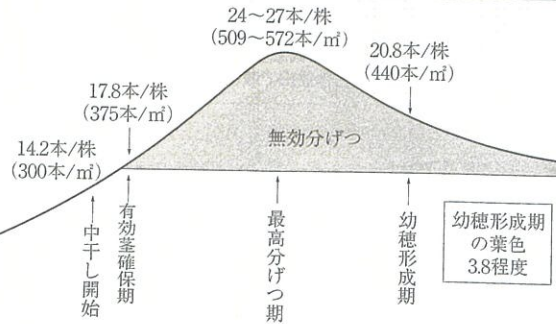
<幼穂形成期生育量の目安>

	草丈	葉色	茎数 (本/※70株値)
適正	72cm以下	3.8以下	21本以下
やや旺盛	73~79cm	3.9~4.2	22~25本
過剰	80cm以上	4.3以上	26本以上

※1 中山間地域及び初期茎数が確保しにくい地域では5月10日植え80株植を目安とする。

70株植※1
3~4本/株
(74本/m²)

(5) コシヒカリ



月日	5/11	5/29	6/11	7/10
葉齢	2.5	5.4	7.7	12.0
月	5月		6月	
生育区分	有効分けつ期		無効分けつ期	
管理作業	5/11頃※1 田植 ・早期追肥 ・除草剤散布		6/9頃 6/11頃 ・溝切り ・中干し開始	
栽培管理のポイント	70株植※1、株当たり3~4本植、3cm程度の浅植 田植後は5月15日頃を中心に、田植は低温・強風・雨の日に行わない。 活層後は浅水管理で、田水温の上昇を図る。		そのまま中干しを開始する。田植25日後に溝切りを行い、中干し後は間断かん水 ・中干しの程度は土質に応じて決める。仕上げを行っておく。 ・中干しの効果を高めるため、予め溝の ため注意。 ・第1回穂肥は早過ぎたり、量が多過ぎると倒伏や品質低下の原因になる	

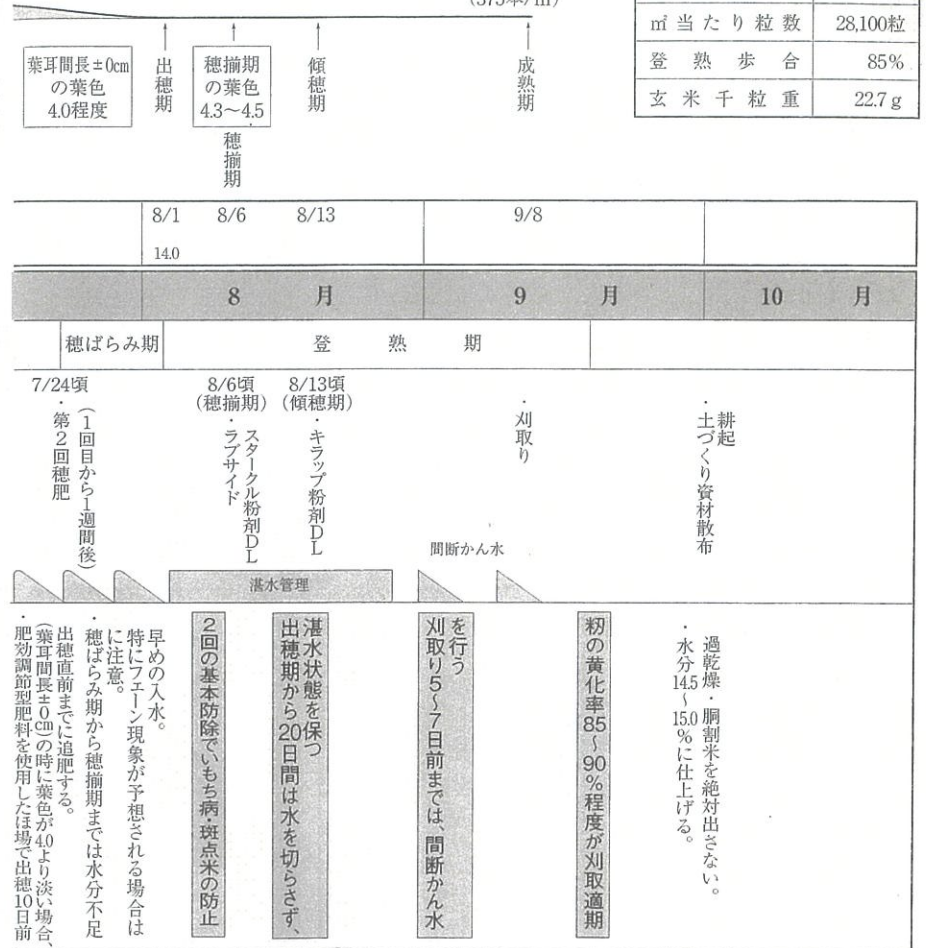
施肥設計

品 種	栽培方法	施肥方法	施肥体系	土づくり資材 (パワーシリカ)	基 肥		早期追肥 (追肥3号)	穂肥 (追肥3号)	
					肥料名	施肥量		1回目(幼穂15mm)	2回目(1週間後)
コシヒカリ	移植	側条	※2 肥効調節型	100	Jコートコシヒカリ1号	30	-	-	-
				100	Jコートコシヒカリ2号	26	-	-	-
		側条	分施	100	基肥206	25	-	10	12
		全層	分施	100	基肥206	30	15	10	12

【JA米生産基準】

収量構成の目安

構成要素	目標値
10a 当たり収量	540kg
m ² 当たり穂数	375本
1 穂粒数	75粒
m ² 当たり粒数	28,100粒
登熟歩合	85%
玄米千粒重	22.7g



(単位: kg/10a)

穂肥(追肥3号)	成分計 (土づくり資材含む)		
(出穂前追肥)	N(窒素)	P(りん酸)	K(カリ)
(7)	6.3(7.4)	7.7(7.9)	10.4(11.5)
(7)	5.5(6.6)	7.3(7.5)	9.7(10.8)
-	6.3	10.7	12.3
-	9.2	12.1	15.4

※転作跡田、堆肥施用田の場合はP25参照

・早期追肥は、田植7日後に散布する。
・昨年秋又は今年春にパワーシリカを散布しない場合は、6月25日頃にエスアイ加里らくだを15kg/10a散布する。

※2 コシヒカリ(移植)の肥効調節型基肥は、土壤地帯で使い分ける

1号	黒ボク、砂質田(川沿い)	30kg/10a
2号	壤質、粘質田(一般田)	26kg/10a